

元副会長，名誉会員，功労章受章者

青木 滋先生のご逝去を悼む

本学会名誉会員，新潟大学名誉教授の青木滋先生は，平成18年11月29日に永眠されました。享年75歳の安らかなご臨終であったとお聞きしております。

先生は，東京都のご出身で，昭和28年東京教育大学理学部地学科をご卒業後，昭和34年同大学大学院理学研究科博士課程を修了し，理学博士の学位を授与されました。学位論文は，「東北地方の第三紀貝化石群の古生態学的研究」という当時新しい分野として注目されるテーマでありました。その後，東京都土木技術研究所に就職され，地盤沈下や地下水資源開発などの現場に密着した応用地質学の研究を精力的に展開されました。昭和45年には新潟大学理学部附属地盤災害研究施設の助教授として招かれました。昭和53年同研究施設や工学部附属雪氷工学研究施設などが母体となって積雪地域災害研究センターが設立されると，その中心となって，調査研究にご尽力されました。昭和56年教授に昇格され，昭和61年から2年間と平成3年から2年間，それぞれ積雪地域災害研究センター長として同センターの運営にあたられました。

新潟大学での先生のご研究は，地盤沈下，地すべり，土石流，地下水，地震など多岐にわたっていますが，特に新潟平野の地盤沈下の解明に長年にわたり取り組んでこられました。また，日本一の地すべり県である新潟県下の数多くの地すべり地で故小川正二先生らと共同で調査研究を行われました。

先生は，豊富な現場経験に基づいた実践的な問題への地質学の適用例を盛り込んだ名講義によって学生諸氏に強い影響を与えられました。どんな学生でも別け隔てなく懇切な指導をされてきたため，誠実なお人柄を慕い集うものが多く，先生の薫陶を受けた若い人が日本各地で活躍しておられます。

学会活動も極めて多彩で，関連諸学会の会員として，また学会役員や，各種委員会委員長として活躍してこられました。本会関係では，会誌編集委員長，参与，理事（昭和44～45年度），副会長（平成3～4年度），北陸支部長（昭和63～平成2年度）などを歴任され，学会の発展に寄与されました。これらの貢献に対し，功労章を受章され，地盤工学会名誉会員に推薦されました。本会以外でも，日本地質学会評議委員，日本第四紀学会評議委員，日本地下水学会評議委員，日本応用地質学会評議委員，地すべり学会運営委員等の要職を歴任されました。

環境問題や防災問題は地域行政機関にとって住民と密接に関係する重要課題であります。青木先生は新潟県の地盤沈下防止対策技術検討委員会委員，温泉審議会委員，都市計画地方審議会委員等，各種委員として専門的立場から適切な指導，助言をされてきました。さらに国関係では，科学技術会議専門委員会委員，環境省地盤沈下研究委員会，日本学術会議の地盤環境研究連絡委員会委員等を務められているほか，旧北陸地方建設局，北陸農政局，鉄道建設公団などの委員会にも参加されています。

その活動は国内にとどまらず，国際会議で専門の論文を発表し，外国の学者と積極的に相互訪問される等，国際交流の上でも大きな足跡を残されました。例えば，昭和62年秋には「長江・黄河流域の大規模地すべりの比較研究」をテーマとして中華人民共和国で調査団長として海外学術調査を実施されました。

昭和52年7月11日～15日，第9回国際土質基礎工学会議が東京の帝国ホテルで開催されました。世界の一流の研究者，技術者が一堂に会するその機会をとらえて，引き続き7月24日に新潟でも国際地すべり特別講演会を土質工学会北陸支部と地すべり学会新潟支部との共催でイタリア軒にて開催されました。テル・ステパニアン教授（アルメニア工科大学），バンダリー博士（インド，中央建築研究所），ケズディ教授（ブダペスト工科大学）など，地すべりの錚錚たる研究者を招聘されました。この時，新潟の地に初めて同時通訳を導入し，講演会を成功に導いて下さったのが先生で，その人脈の広さと国際交流の先鞭をつけられた先見性にも感服いたしました。

ここに在りし日の先生のご活躍とご温容を偲び，心からご冥福をお祈り申し上げます。

（青山清道 新潟大学災害復興科学センター教授 本学会員）

社団法人 地盤工学会

